曼珠沙華の葉

染谷　秀雄

昨年千葉誉田を引っ越す際、杉並の庭にも植えられそうなものを見繕って持ってきたその中に曼珠沙華がある。植えた覚えはなかったがいつの間にか必ず秋の彼岸近くになると出てきた。それが濡縁の大きな靴脱石に挟まれたところからだったので、数はあまり増えなかったがそれでも三本くらいは時期になると出てきた。引っ越す際は、この辺りと思える土を掘って「土塊」をそのまま植えたので大丈夫か不安ではあった。ところが十月五日、何気なく庭を見ていたところ五センチ程の葉が出ているのを見つけた。曼珠沙華のようだ。そして一週間もするともう一つ出てきた。今では三本、よく出てきてくれたものだ。丁度この時期は花が終わって葉が出てくる時期で冬から春にかけて光合成で球根に栄養を蓄え、四月ころに葉は枯れる。夏には地上に何もなく、球根は開花に向けて花芽を発達させているときだ。今年は駄目だったが来年の秋には花を咲かせてくれることだろ

曼珠沙華について知人から話しを訊いたところでは、曼珠沙華は梵語で天上に咲く花という花の名で『法華経』の巻第一序品に、釈尊が多くの菩薩のために法華経を説かれるときに現れる六つの瑞相の一つとして空から降るという四種の蓮華すなわち、曼荼羅華・摩訶曼荼羅華・曼珠沙華・摩訶曼珠沙華の四華（しけ）を雨（ふ）らせて供養したという一種で見る者の心を柔軟にするという。彼岸花は花の時に葉を見ず、葉の時に花を見ないので、「ハミズ」、「ハナミズ」等と言い日本の野草の中では最も異名の多く、生活とともにあった花の証である。